

地域一体型 NST 活動構築に向けての取り組み

JA 三重県厚生連鈴鹿中央総合病院 NST¹⁾ 栄養管理科²⁾

中谷理恵¹⁾²⁾ 中原さおり¹⁾²⁾ 田島睦美¹⁾²⁾

【はじめに】

当院では、平成 10 年 6 月に全科型 NST が稼働し 10 年が経過した。当院は急性期病院であるため、状態が安定すれば早期に他病院や福祉施設への転院や、自宅への退院となる。誤嚥や下痢、嘔吐などを繰り返し再入院になる患者様も少なくない。そのため、地域においても継続的に栄養管理がなされる必要があるため、地域一体型 NST 構築への活動を開始しているので報告する。

【活動内容】

《鈴鹿地域栄養管理ネットワーク》を設立し地域の医療従事者に栄養管理の啓蒙を行っている。これは平成 8 年から開催されている三重県保健福祉部主催の栄養士対象の研修会より発展したもので、多職種共同にて栄養管理が行えるよう、情報の共有や知識の向上を図れる場をとということで、現在は当院 NST が主体となり、平成 19 年より研修会を行っている。管理栄養士、言語療法士、皮膚・排泄ケア認定看護師などが講師となり、摂食・嚥下に関することや当院の嚥下食の紹介、経腸栄養剤の選択方法、栄養アセスメントの方法、症例を交えたグループワーク、褥瘡ケアと栄養管理など、基礎的な知識から日頃栄養管理を行っていくうえでの問題点などを題材に第 5 回まで開催している。また、在宅へのアプローチとしては、鈴亀地区居宅介護支援事業所・介護支援専門員連絡協議会の研修会にて講師として参加もしている。

患者様の転院時には、転院先の主治医宛に NST 情報提供書や、栄養士宛に栄養サマリーを提出している。

【今後の課題】

栄養管理継続のため、患者様の情報の共有化を図りながら、施設間のネットワークの強化、多職種が連携し栄養管理が行えるような体制の構築。VE（嚥下内視鏡検査）や嚥下機能評価などのできる医療機関の財源を上手く利用できるようなシステムの構築。情報提供書がそのまま教科書のようにしてしまうのではなく、其々の役割分担を自覚し、研修会などを通して意識を高め、それを実行していくことも課題と考える。また行政や栄養士会、医師会、日本静脈経腸栄養学会などのコーディネートがあれば、地域を含めた栄養管理が今後更なる発展をできるのではないかと考える。